

只見町ブナセンターだより

只見町ブナセンターは、2月最終週に建物の老朽化に伴う施設補修のために臨時休館しました。さいわい、短期間で補修が終わり、3月1日から再開いたしました。皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、今後とも只見町ブナセンターをどうぞよろしくお願いいたします。

【企画展】

季節とともに生きる

只見の野鳥とその生態



2015年1月17日(土)~6月7日(日)

この企画展では、只見町で見られる鳥類をパネルや写真、剥製などにより紹介しています。

庭先に現れたオオルリが春の訪れを知らせてくれるように、何気ない鳥のいる風景から私たちは季節を感じることができます。鳥が作り出す季節の風景とその鳥の生態とを紹介することで、見なれた野鳥や自然をもう一度見直していただき、只見町の自然を理解し、楽しんでいただけるよう企画しました。只見町の鳥類相の大きな特徴の一つは、猛禽類が豊富であることでしょうか。深い森林が広がっていることが、様々な猛禽類の生息を可能にします。クマタカの剥製をじっくり見てください。その大きさや、くちばしとツメの鋭さに驚かれることと思います。

ぜひ、ご来場ください。お待ちしております！

※開催期間を2015年6月7日(日)までに延長しました。

【新刊発行のお知らせ】

「絶滅危惧種 ヒメサユリのすべて」 (企画展解説シリーズNo.8)

只見町には、ブナをはじめ、カタクリ、フクジュソウ、ユビソヤナギ、ユキツバキ、ニオイコブシなどなど、町のシンボルとなる植物がたくさん生育しています。その中でも、とりわけ可憐な花で皆から愛されているのはヒメサユリではないでしょうか？

只見町では、山の上から崖の中腹、スキー場の草地など、あちこちでヒメサユリを目にすることができますが、実は、その分布は東北地方南部と隣接する新潟県山間部のおもに内陸部の多雪地帯に限られています。どうやって、雪の深い厳しい環境で生きていくのでしょうか？ヒメサユリの秘密を解き明かしたブックレットです。

(※只見町ブナセンターにて、¥500で販売しております)



【活動報告】

■ブナセンター講座

2015年3月7日(土)「森を作る鳥たち ー鳥と果実の共進化ー」



講師に上田恵介氏（立教大学理学部生命理学科教授）をお招きし、鳥と果実の関係に焦点を当ててお話しいただきました。

植物の種子散布の方法には、風や水流など自然の力に頼る方法と動物に種子を運んでもらう方法があります。効率が良いのは後者で、センダングサやオモナミなどの付着型、リスやホシガラスなどに頼る貯食型、アリによる散布など様々な方法で種子は散布されます。もっとも多いのは周食型と呼ばれる、

動物が種子の周りの果肉を食べることにより、食べ残しや排泄物に種子が混ざり遠くへ散布される方法です。

親木周辺に種子が落ちるよりも、鳥に“果実を食べられ”て、遠方の様々な環境に種子が到着することで、子孫の生き残る確率が高くなります。鳥に食べられ易い果実をつける植物ほど有利になります。また、鳥はよりおいしそうな果実を選びます。このように生物相互の関係によって、行動や形態が進化することを“共進化”と言うそうです。

鳥に一度食べられた種子は、果実をそのまま散布するよりも発芽率が上がるそうです。例えば、マダガスカル沖のモーリシャス島に生息していたドードーという鳥は、島に外敵が居なかったため安穏と生活していましたが、17世紀に人や人が持ち込んだ動物によって絶滅しました。このドードーと相互関係にあったと思われるのが、カルバリアという木です。ある生態学者が島の木を調べたところ、樹齢300年以上の古木しか見つかりませんでした。この木の種子は堅い内果皮に覆われており、鳥が果実を食べて内果皮に傷が付かないと発芽しないということが七面鳥を使った発芽実験からわかったそうです。300年前というと、ドードーが絶滅した時期と重なることから、カルバリアの木はドードーに果実を食べられることで確実に発芽していたのではないかといわれています。

鳥が食べる果実はとてもたくさんありますが、目立つ色のものが多く中でも赤い実が大多数を占めています（赤は緑と補色関係にあり、自然界でとても目立つ色）。鳥は赤い色を認識できるため、赤い実を食べる確率が上がります。その結果、広い範囲で種子が散布され、進化の過程で生き残ったということでした。

しかし、多くの鳥は、黒や褐色、白い色の種子も好んで食べています。鳥は人間と違い紫外線を見ることが出来るため、人間には地味で目立たない色に見える黒い実でも紫外線を強く反射するものについては目立つ色として認識されているようです。また、住宅地の鉄塔などの下に溜まったムクドリやカラスの排泄物に含まれる種子を調べたところ、白や褐色といった果実の種子が多く、赤い果実の種子はほとんど見られませんでした。彼らは、赤く目立つ外見に騙されず、より栄養価の高い果実を選択して食べていると考えられます。

こうした鳥と植物の関係により、多くの種子が散布され生育し新しい森を作っていくということを今回の講座の中で知ることが出来ました。

講座には、33名の方が参加され、興味深くお話を聞かれました。質疑応答では、「鳥が食べる果実は秋に実るものが多いと思うのですが、夏場に生る果実類は鳥に食べられているのでしょうか？」という質問があり、「モミジイチゴやクワの実などが、コムクドリやオオルリ、ツグミなどによって食べられており、子育てに利用されたりしている」と回答があるなど、鳥と果実の関係性についてより理解を深めることが出来た講座となりました。

■自然観察会

2015年3月8日（日）「上田先生と歩く！冬のブナ林」



3月8日（日）小雨が降る中、16名の方にご参加いただき、ただみ観察の森・樫戸の二次林、只見ダム周辺で自然観察会を開催しました。前日のブナセンター講座に引き続き、講師は立教大学の上田恵介先生です。

周辺の山肌の雪崩跡や木々の冬芽の膨らみなど、周囲の自然の様子や空気の中に春を感じるようにはなってきましたが、今年は大雪の為まだまだ2メートル以上の雪が残っています。

まずは観察の森へ向かいました。森へ入るには雪の壁を乗り越えていかななくてはならず、数日前下見した際、雪の壁につけておいた段を登り、そこからスノーシューを履いて歩き始めました。林床の植物や笹などはみんな雪の下で、森の中はすっきりとした印象です。この森の中で一番大きくて存在感のあるブナのもとに集まり、観察の森の説明などをしました。およそ60年前にブナの天然林が伐採され、その後自然に再生された森で、残っているブナの巨木はかつての天然林の痕跡です。残念ながら、ここでは鳥を見ることが出来なかったのですが、動物の足跡や糞、ブナの膨らんできた冬芽を観察したり、雨水がブナの幹を流れる樹幹流を見ることができたり、冬の森を満喫できたように思います。

そして、場所を移して只見ダムでは、オオバン、カルガモ、カンムリカイツブリ、カワアイサ、キンクロハジロ、スズガモ、マガモなどの水鳥を観察することが出来ました。上空では2羽のトビが優雅に舞っていました。上田先生に冬季の鳥の行動について説明していただきました。

偶然にも山の斜面に佇むカモシカに遭遇し、お互いにじーっと見つめ、しばしのお見合いとなりました。結構長い時間、微動だにせずこちらを見ていたので、いい写真が撮れたのではないのでしょうか。

参加された皆さま、ありがとうございました。次回は5月に春植物、春のブナ林の観察会を企画していますので、またのお越しをお待ちしています！



ブナの前で記念撮影



只見ダムで水鳥観察中

【連載:世界のBR (Biosphere Reserves: 生物圏保存地域)No.3】

ユネスコエコパークというのは日本国内の呼び名で、国際的には生物圏保存地域 (Biosphere Reserve: BR) といいます。現在、119カ国に631のBRがあります。海外のBRをシリーズで紹介します。

2014年6月に只見町や南アルプスと同時に海外では11の地域がBRに登録されました。今回も前回に引き続きそのうち1つのBRを紹介します。

(3) Sila (イタリアのシラ)



シラのBRはイタリア南部に位置し、面積が36万haに及びます。この地域におよそ1000種の維管束植物と210種の脊椎動物が生息します。植物の種の多様性は世界中から賞賛を集めています。人口はおよそ23万人で、主として農業に携わっています。近年はエコツーリズムに携わる人が増え、年間50万人以上の訪問者がいます。

*** この記事は以下のユネスコのホームページに基づいています。このホームページから各BRの写真を見ることができます。もちろん、只見も載っています！**

<http://www.unesco.org/new/en/media-services/multimedia/photos/mab-2014/>

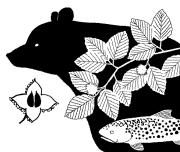
【今後の活動予定】

■只見町ブナセンター行事予定

開催時期	行事名	備考
2015年 1月17日(土)～ 6月7日(日)	企画展 季節とともに生きる 只見の野鳥とその生態	只見町に生息する鳥類を、パネルで解説する他、写真と剥製の展示を行っています。
2015年 5月2日(土)	自然観察会 「春植物を愛でる！」	雪解けとともに咲き始める、只見町の春植物を観察します。
2015年 5月3日(日)	自然観察会 「春のブナ林を歩く！」	長い冬が終わり、芽吹き始めた残雪のブナ林を歩きます。

【編集後記】早いもので今年度も終わりとなります。そして、長かった冬も終わり、待ちに待ったきらめく春がやってきます。4月からの新年度もどうぞよろしくお願いいたします！

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



只見町ブナセンター

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）

入館料：高校生以上300円 小中学生200円 未就学児無料（20人以上は団体割引）

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>